

SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

週報 平成 25 年 (2013 年) 第 34 週 (8 月 19 日～8 月 25 日)

発行年月日:平成 25 年(2013 年)8 月 29 日
 発行:滋賀県感染症情報センター
 滋賀県衛生科学センター 健康科学情報担当
 電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
 e-mail:ef4505@pref.shiga.lg.jp

- 腸管出血性大腸菌感染症多発警報を発令[対象期間;8 月 22 日(木)から 9 月 1 日(日)]
- 手足口病は減少傾向にあるが、県内全域に警報発令中
- ヘルパンギーナが高島保健所管内(警報発令中)で多い
- 無菌性髄膜炎が長浜保健所管内より報告された。2013 年において、同保健所管内は無菌性髄膜炎の報告が過去と比して多い
- 風しんは全国と滋賀県ともに減少傾向にあり、第 34 週の報告はない

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し、掲載しています。

平成 25 年第 1 週以降に診断された疾患のみを集計して下の表に示しています。

第34週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 2例	肺結核;1例、粟粒結核;1例
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 6例	O157 VT1・VT2;5例、O121 VT2;1例 発症者;4例、無症状病原体保有者;2例
	四類感染症	レジオネラ症 1例	肺炎型
	五類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例	86歳男性
第33週以前の診断例	二類感染症	結核 2例	肺結核;1例、結核性胸膜炎;1例

分類	疾患	滋賀県		保健所別(34週)							平成25年累計		平成24年累計 [※]	
		33週	34週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	7	2	1	1	0	0	0	0	0	182	17,214	254	28,951
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	6	0	2	0	2	2	0	0	21	2,305	37	3,765
四類	レジオネラ症	0	1	0	0	0	1	0	0	0	13	674	10	898
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	671	13	931
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	253	3	361
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	136	2	183
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	139	3	243
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	972	9	1,427
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{※※}	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	64	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{※※}	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	537	—	—
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	767	1	891
	風しん	2	0	0	0	0	0	0	0	0	120	13,846	12	2,391
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	5
	麻しん	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	189	1	285

※ : 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症疫学センター 平成25年3月現在)

※※ : 平成25年4月1日から対象感染症として追加

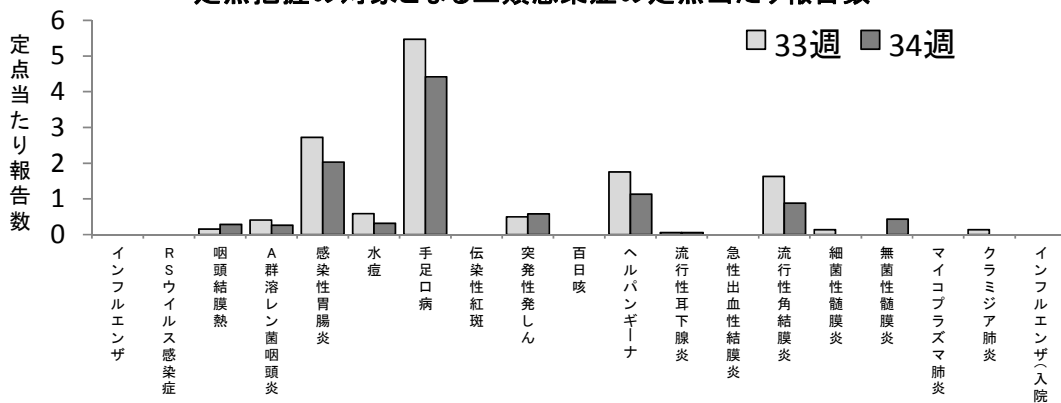
2. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

警報： 手足口病 県内全域;4.42
ヘルパンギーナ 高島;4.50（警報基準;6.00、警報解除基準;2.00）

注意報： なし

- 1) 報告数の多かった感染症は、多い順に手足口病、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナでした。
- 2) 手足口病は県内全域に警報発令中です。先週と比べて減少しましたが、過去5年の同時期と比べて最も多く患者が報告されました。
- 3) ヘルパンギーナは高島保健所管内（警報発令中）で多く報告されました。
- 4) 無菌性髄膜炎が長浜保健所管内で増加した。同管内においては、5、6月に提出された12例の無菌性髄膜炎症例より採取した髄液からエコーウイルス30型が検出されている。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



3. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

感染症発生動向調査事業において、滋賀県が指定した定点医療機関（指定報告機関）から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。週単位（月曜日から日曜日）で報告される感染症について、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています（定点当たり報告数＝報告数/定点医療機関数）。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(34週)						
		33週	34週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科 (32)	RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.16	0.29	0.43	0.50	0	0.20	0.25	0.33	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.41	0.26	0.57	0.17	0.25	0.20	0	0	0.50
	感染性胃腸炎	2.72	2.03	2.14	1.00	0.75	3.40	4.25	1.00	1.00
	水痘	0.59	0.32	0.43	0	0.25	0.40	0.75	0.33	0
	手足口病	5.47	4.42	3.57	6.17	6.25	5.00	2.75	2.33	3.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	突発性発しん	0.50	0.58	0.86	0.17	0.50	0.60	1.25	0.33	0
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	1.75	1.13	1.14	1.33	0	1.00	0.75	0.67	4.50
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.06	0.06	0.14	0	0	0	0	0	0.50
眼科 (8)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	1.63	0.88	1.00	1.00	3.00	1.00	0	0	0
基幹 (7)	細菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0.43	0	0	0	0	0	3.00	0
	マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.14	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)*	0	0	0	0	0	0	0	0	0

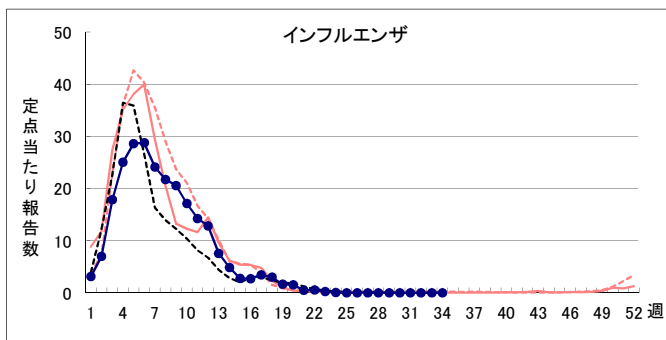
* 平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

赤字： 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過

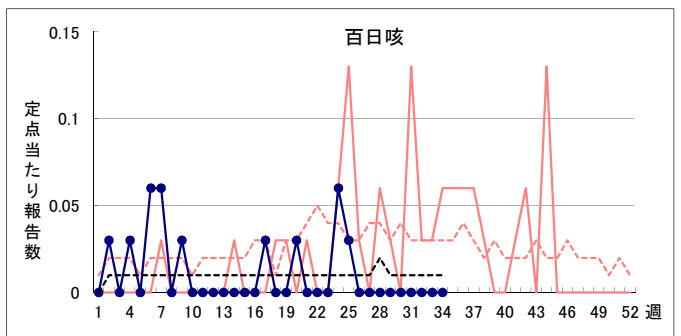
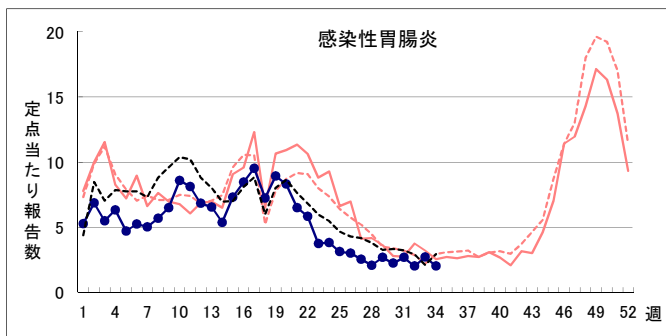
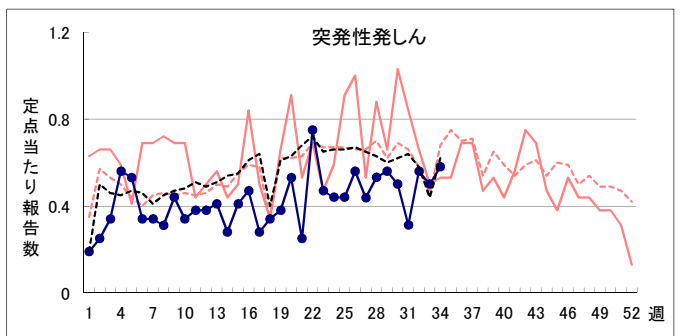
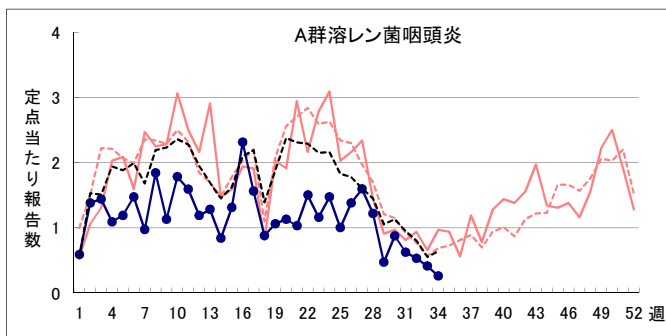
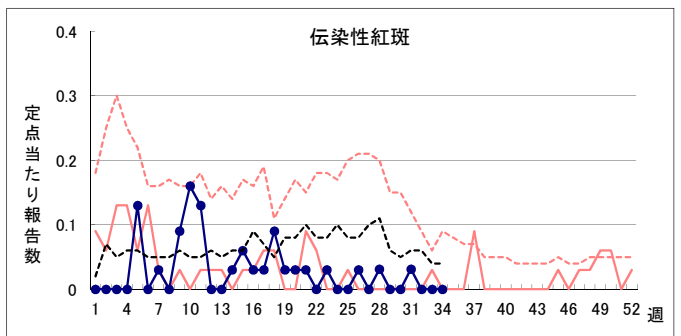
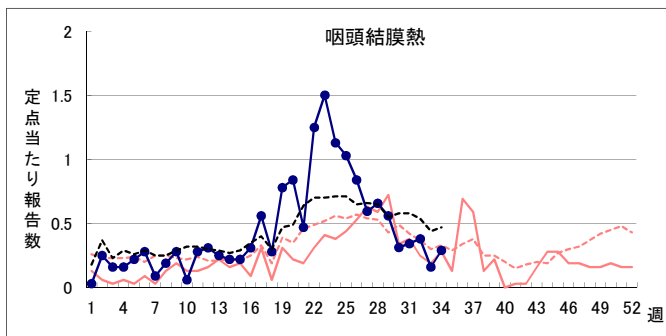
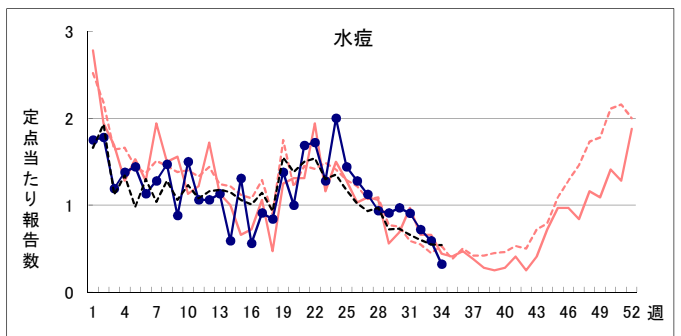
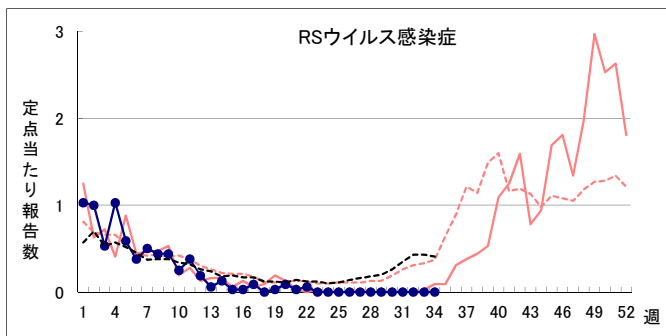
紫字： 注意報レベルの基準値を超過

4-1. 疾病別定点当たり報告数

平成25年第34週

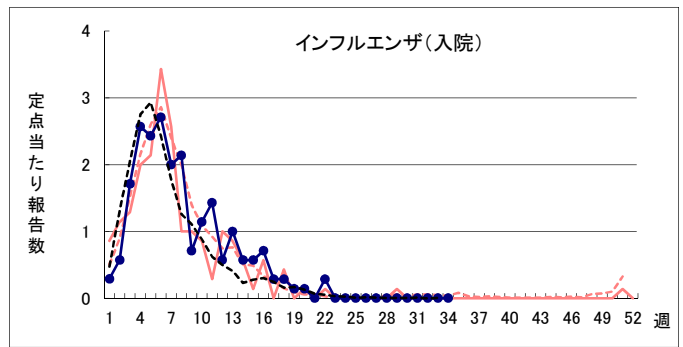
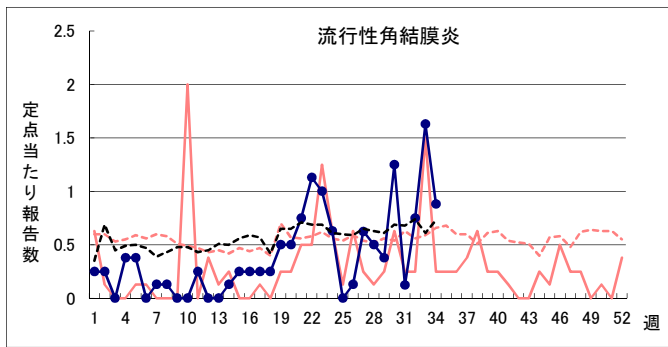
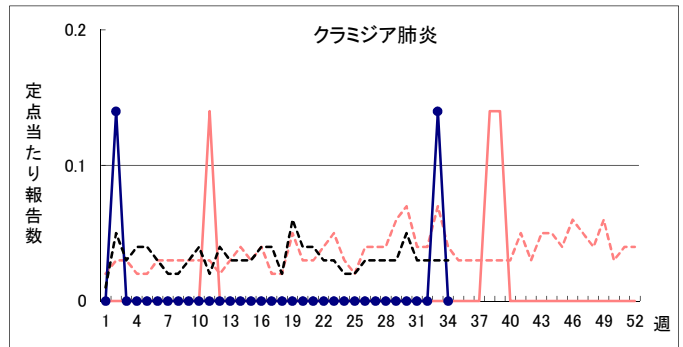
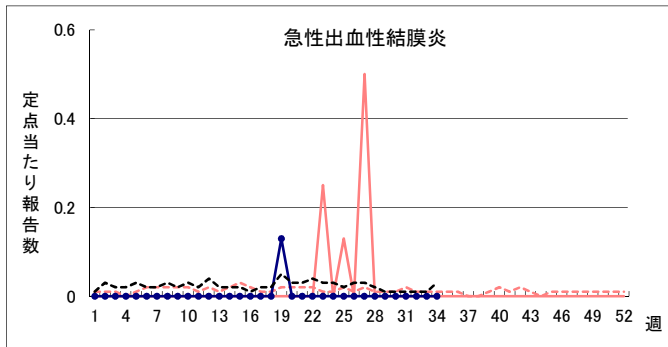
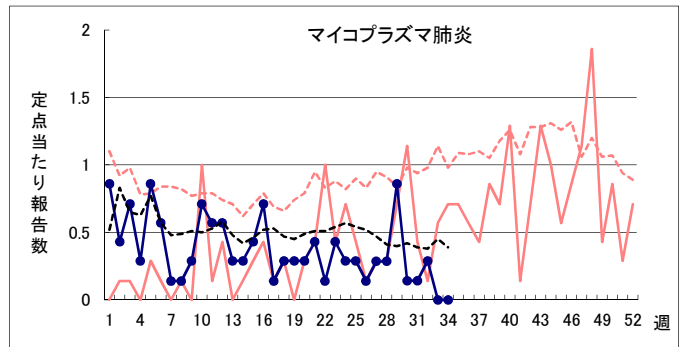
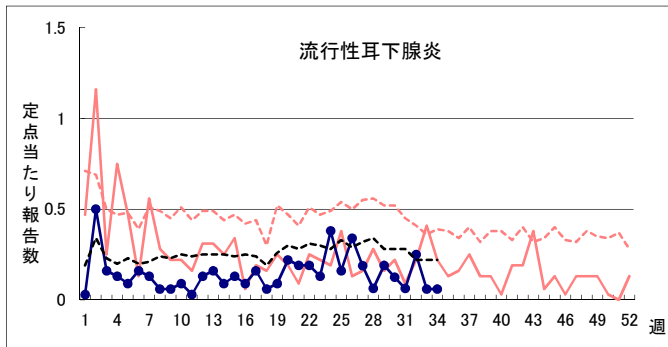
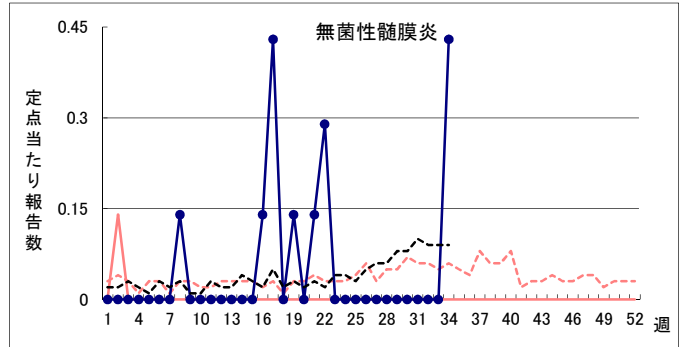
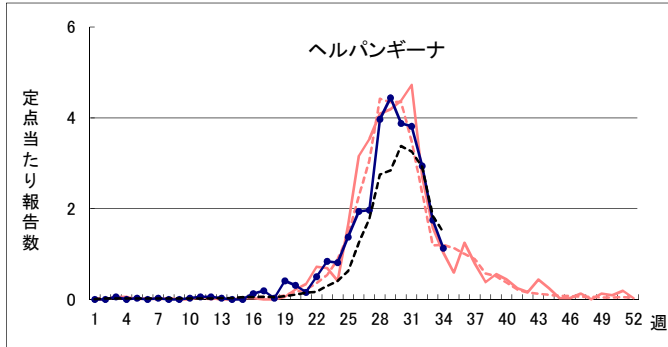
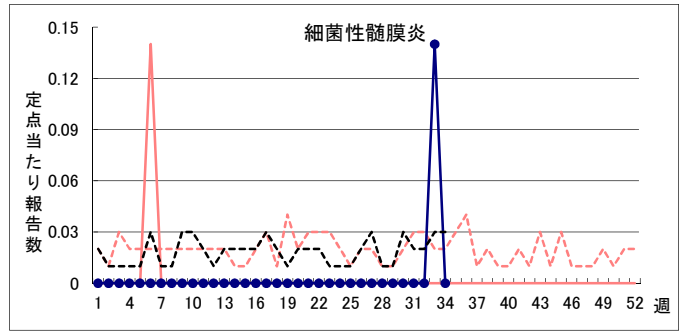
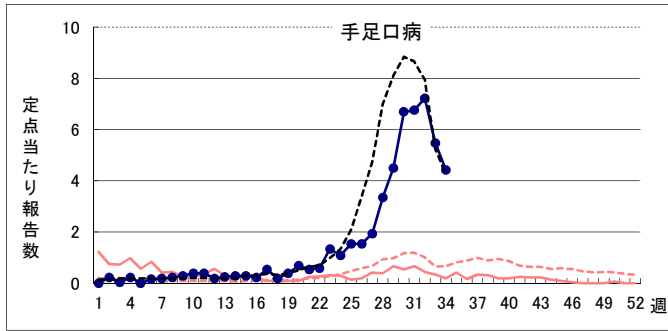


H24 { 滋賀 (solid red), 全国 (dotted red)
 H25 { 滋賀 (solid blue), 全国 (dotted blue)



4-2. 疾病別定点当たり報告数 平成25年第34週

H24 [滋賀 ———— 全国] H25 [滋賀 ●——— 全国]



手足口病の発生動向

平成25年第34週

1. 第29週に滋賀県の発令基準に基づいて県内全域に警報が発令されました。
2. 減少傾向にありますが、過去5年の同時期と比べて最も多い状態が継続しています。
3. 症例の87%は0-5歳でした。
4. 感染者との密接な接触を避けることや流水と石けんを使った手洗いが予防方法として有効です。保育園や幼稚園などの乳幼児施設においては、特におむつ交換後や排せつ物処理後の手洗いが重要です。

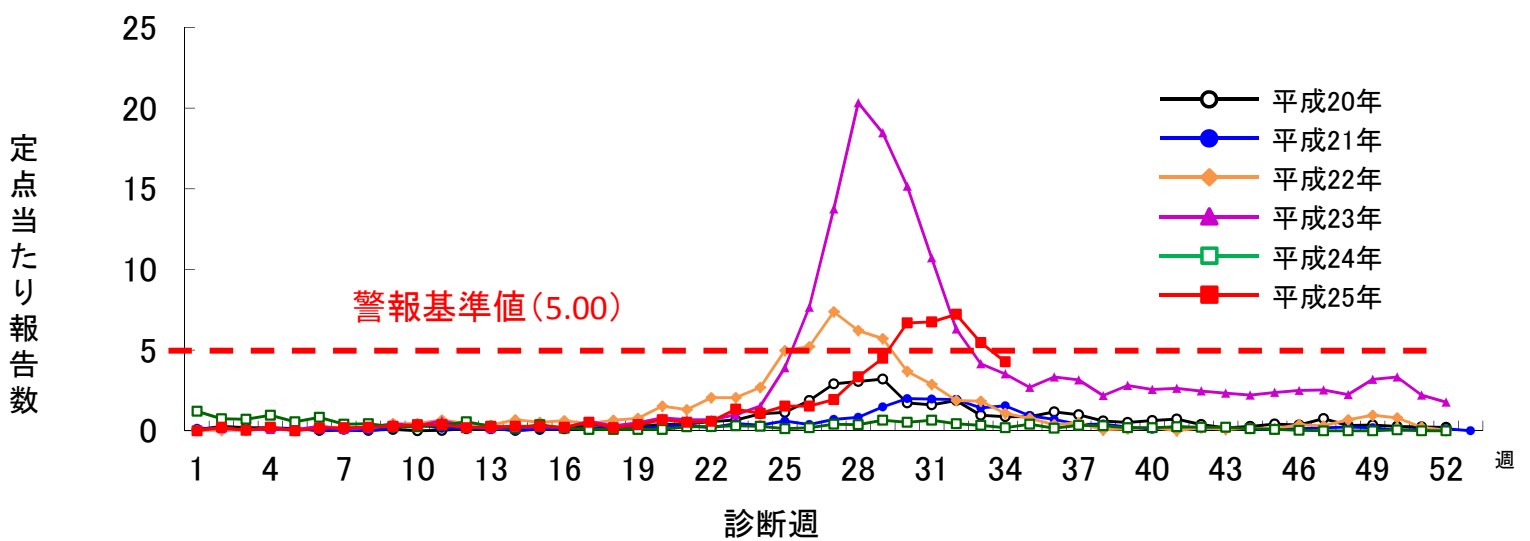


図1. 手足口病の診断週別定点当たり報告数(平成20年第1週—平成25年第34週)

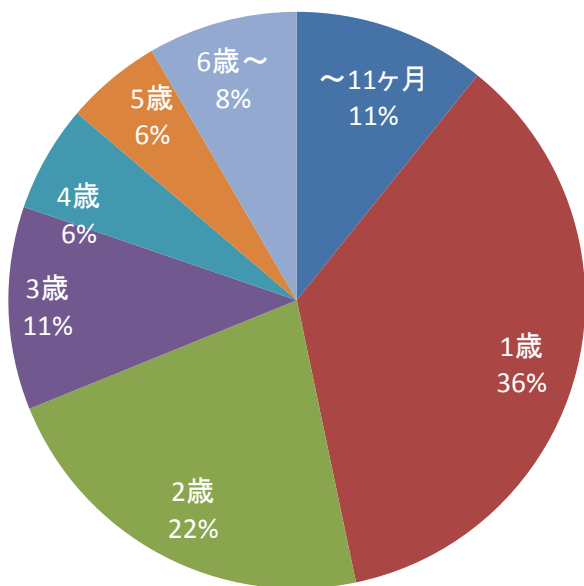


図2 年齢割合
(平成25年第34週)

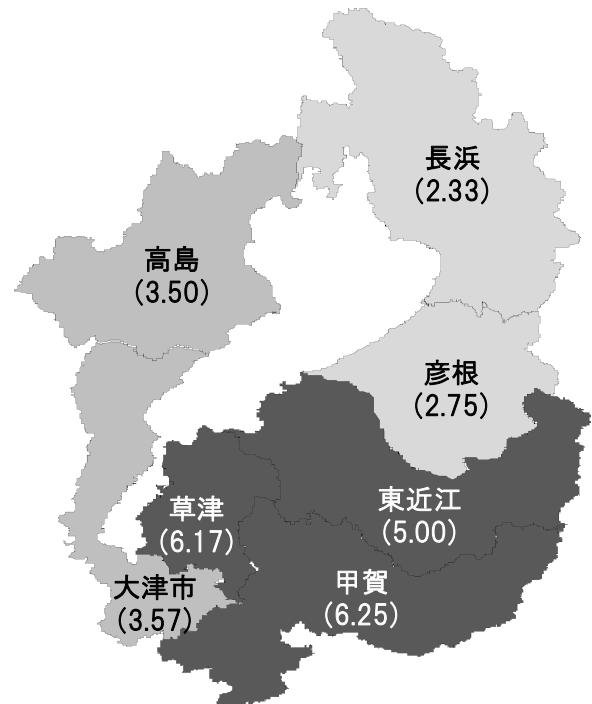


図3 保健所別定点当たり報告数
(平成25年第34週)

腸管出血性大腸菌感染症の発生動向

平成25年第34週

1. 8月22日(木)から9月1日(日)を対象として、腸管出血性大腸菌感染症多発警報が発令されました。
2. 第1週(平成25年1月)からの累積報告数は21例です。
3. 平成20年以降の各年の8月までの累積報告数と比較して平成21年に次いで2番目に少ない報告数です。
4. 溶血性尿毒症症候群(HUS)を合併した症例の報告はありません。
5. 平成25年は報告された症例の62%が女性でした。また、女性のうち46%は無症状病原体保有者(男性の無症状病原体保有者は14%)でした。

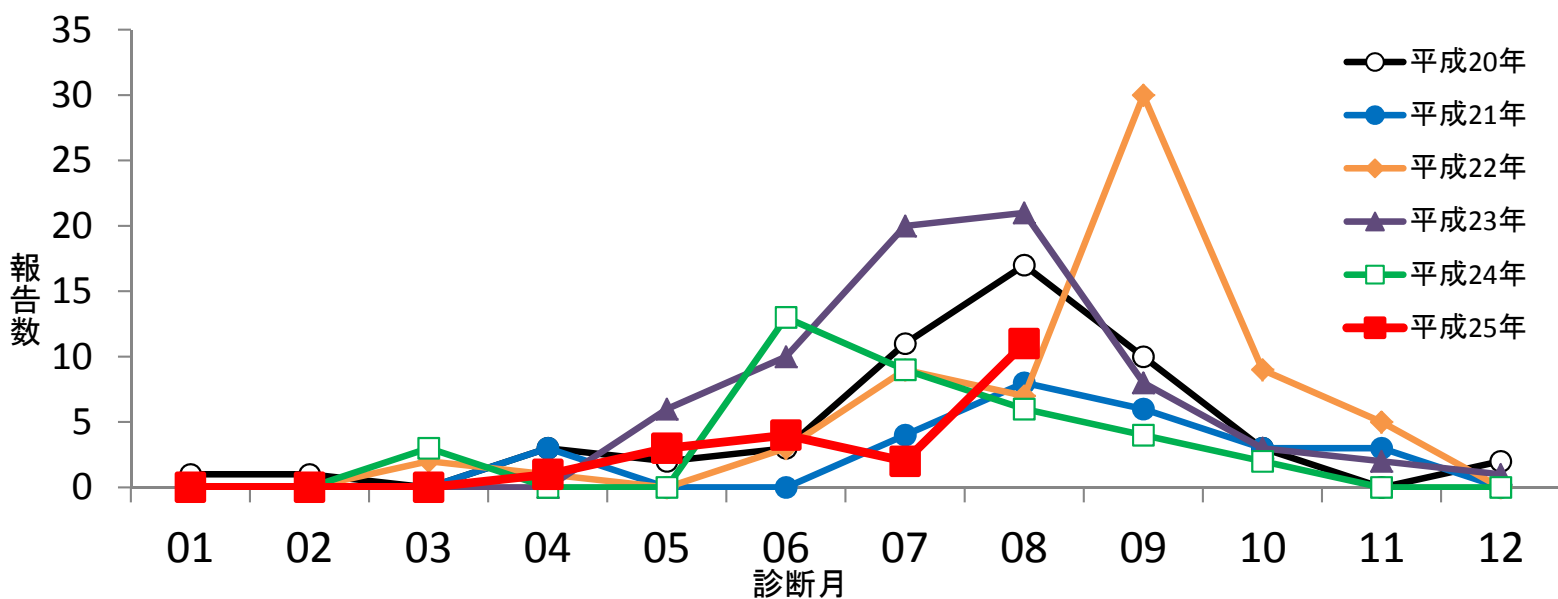


図1 滋賀県の診断月別報告数(平成20年1月-25年8月)

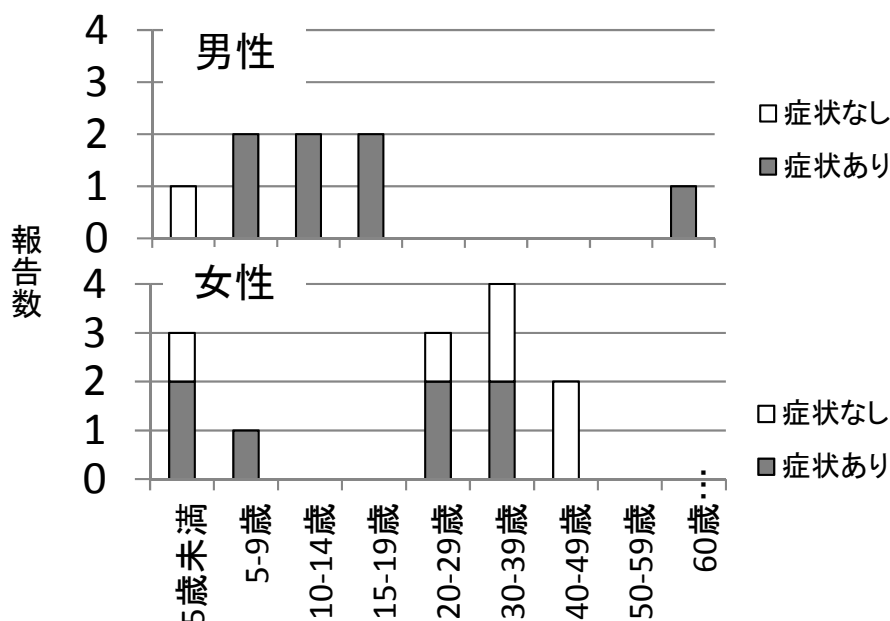


図2 年齢階級別・性別報告数(平成25年第1~第34週, 21例)

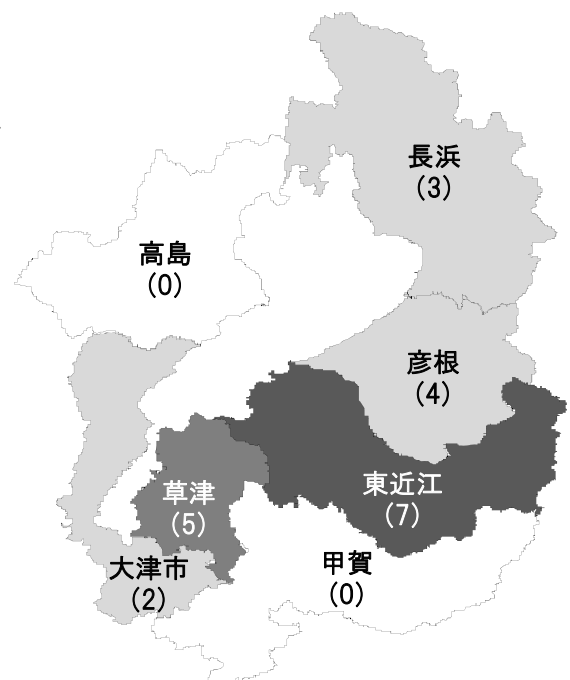


図3 保健所別報告数(平成25年第1~第34週, 21例)

風しんの発生動向

平成25年第34週

1. 第1週(平成25年1月)からの累積報告数は120例です。
2. 滋賀県では第34週の報告はありません。
3. 全国と滋賀県ともに減少傾向がみられます。
4. 20～40歳代が73%を占めており、性別では男性が81%を占めています。
5. 多くの症例は、ワクチン接種歴が不明または未接種者でした。
6. 平成25年1月以降、滋賀県では先天性風しん症候群の報告はありません(全国 累計12例)。
7. 大阪府(3,109例)、京都府(317例)などの近隣府県においても多くの報告があります。
8. 20-40歳代の男性にはワクチン未接種者が多いことが知られています。妊娠予定の女性や配偶者等の同居家族で、抗体価が十分であると確認できた方以外の方は、風しんワクチンの接種をご検討ください。

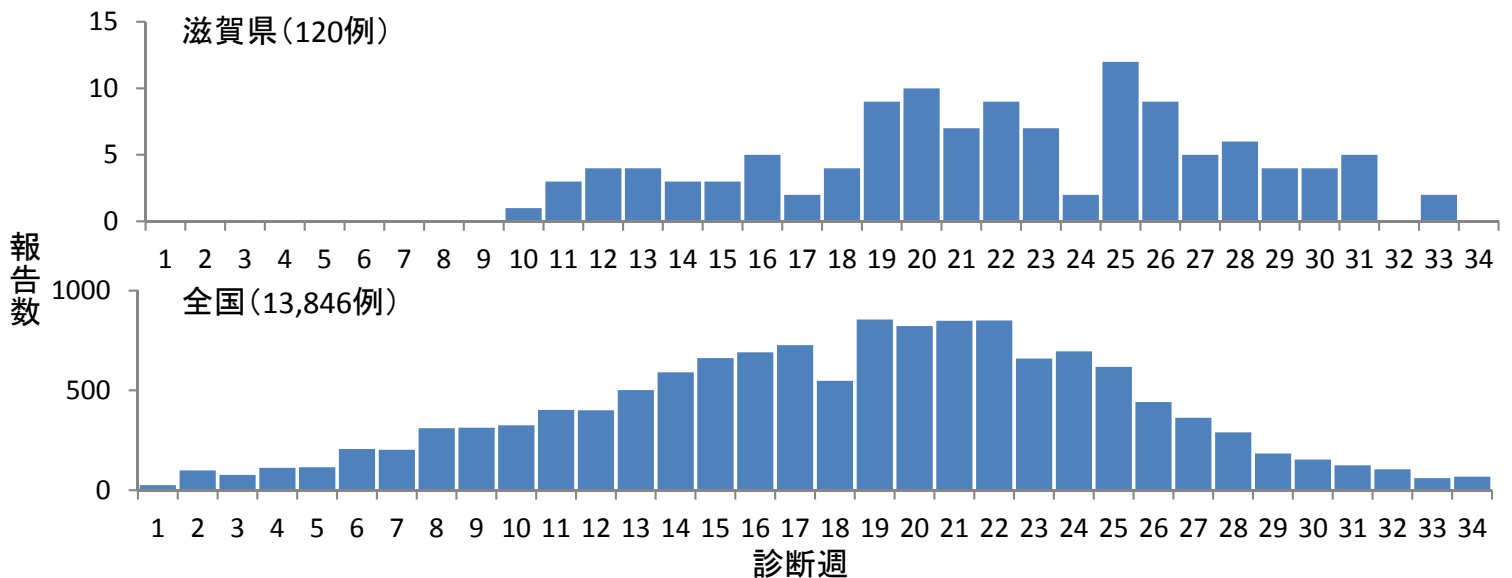


図1 滋賀県と全国の診断週別報告数(平成25年第1週～第34週)

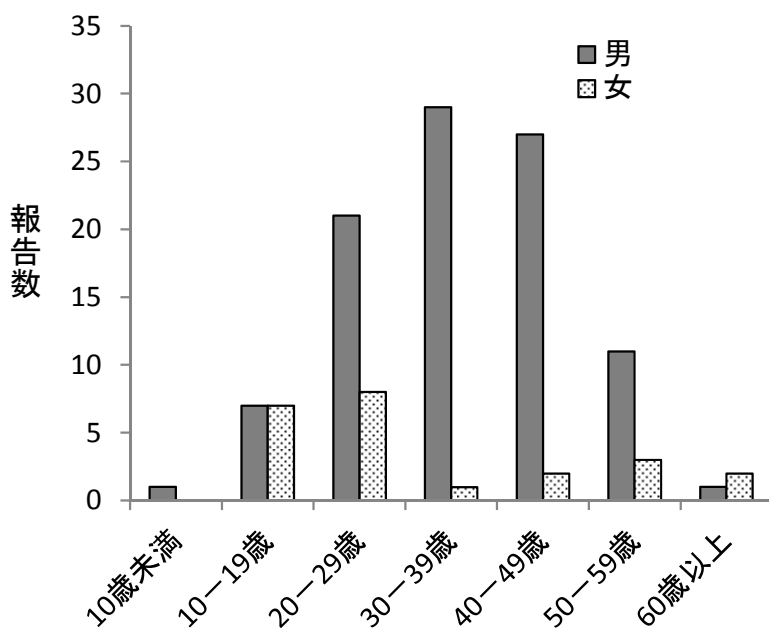


図2 年齢階級別・性別報告数
(平成25年第1～第34週, 120例)

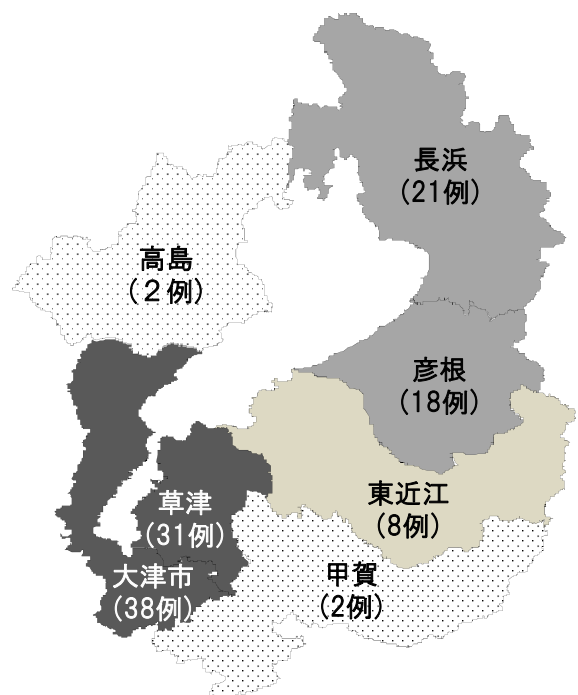


図3 保健所別報告数
(平成25年第1～第34週, 120例)